

「大胆に福音の奥義を」

イザヤ書
エペソ人への手紙

第59章17節～21節
第6章10節～20節

説教 岡村 恒牧師

「大胆に福音の奥義を明らかに示しうるよう
に、わたしのためにも祈ってほしい。」(19節)
キリストの使徒パウロは、主イエス・キリスト
による確かな救いの約束、福音の確かさを、ど
こでも、誰にでも語り伝えながら生きてきたら良
い、と私たちに語りかけます。

大切な良い知らせを聞いた者が、どうしても
黙っていることができなくなる。聖書が語る救
いの約束はそういう約束です。福音を聞いた者
を聖霊が用いて下さるので、キリスト者は誰も
が、パウロの祈りに心を重ね合わせるように祈
り、歩み始めるのです。

エペソの教会に語ってきたパウロは、「最後に
言う」と言って、もう一度この福音の核心部分
を明らかにします。手紙の前半では、主イエス
によって私たちの罪が赦され、神との新しい関
係が築かれたことを語りました。そして後半で
は、私たち人間同士の関係が、神によって新し
く造り変えられていくことを示してきました。
そして最後に、信仰の戦いについて語ります。

信仰の戦いの中で、信仰者が立ち上がり、立
ちつづけるために、「主にあって、その偉大な力
によって」(10節)強くされなければならないの
です。私たちは自分の力で強くなったり、立ち
続けることはできません。簡単に倒れてしまい、
立ち上がることもできなくなります。聖書は
言います。「わたしたちの戦いは、血肉に対する
ものではなく、もろもろの支配と、権威と、や
みの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対す
る戦いである。」(12節)

目に見えない力との戦いがあるのです。私た
ちを神から引き離し、絶望させようとする目
に見えない敵がいるのです。当時パウロは、ど
こに行ってもローマ兵の姿を目にしました。この
兵隊たちの戦いは、ほとんどが一对一の取っ組
み合いです。どのような武具を身につけ、ど
のように戦うかに、生死がかかっていました。
必要な武具を身につけるように、と御言葉は語
ります。しかし、私たちが自分の力で良い武具
を手に入れる、という話ではありません。目
に見えない強大な敵に対抗するために、神ご自身
が必要な武具を用意し、支給して下さいます。

まず、神の前に立ち上がる必要があります。
アダムのように神から身を隠す必要はありませ

ん。神の呼びかけに答えて立ち上がることなど
本来できない私たちを、神が憐れんで、主イエ
スを地上に送り、十字架に架けて下さいました。
だからまず、神の前に立って、生活全体を整え
る神の真実の帯を受け取ります。神の正義の胸
当てが私たちの急所を守ります。私たちが歩く
所に神の平和が、足跡のように実現して行きま
す。自分自身の中からわき上がる疑いや、私た
ちを焼き尽くそうとする不信仰の火の矢を、信
仰の盾が防ぎます。宗教改革者は、信仰のみが、
私たちを死と滅びの手から守る、と告白しまし
た。そしてさらに、神の救いの約束が、かぶと
となって私たちの頭を致命傷から守ります。洗
礼を受けた者は、神の目には全く新しい存在と
して映ります。救いのかぶとを頭の上に輝かせ
る存在として、神の者として映るのです。

これら5つの、身を守る武具に加えて、最後
に、唯一攻撃の武器として御言葉の剣が与えら
れます。いつも手放すことなく、どんな場面
でも神の言葉を握り締めて立ち続けたら良いの
です。私たちを神から引き離そうとする敵に対
して、ただこの剣だけが対抗できるのです。

そして何より必要なものは〈祈り〉です。戦
いに必要な力は、神が注ぎ入れて下さいます。
神を信じ続け、神の前に立ち続けるために必要
な一切の力は、ただ神から与えられるのです。
10節に、「主にあって、その偉大な力によって」
と書いてあるのもそういう意味です。この力は、
祈りの座において与えられます。神によって命
の息を吹き入れられた時、土の塵(ちり)から造
られたアダムは生きる者となりました。聖霊が
注ぎ入れられた時、弟子たちは新しく造り変え
られて、神の救いの約束を宣べ伝える者とな
りました。祈りにおいて、私たちが力を得ます。

祈ってごらん下さい。そうすれば神が、あな
たに新しい力を与え、あなたの信仰の歩みを守
り、大胆に、神の福音を宣べ伝えさせて下さ
います。信仰者の戦いは、神が戦って下さる戦
い입니다。この戦いは、私たちに喜びと平安とを
与え、確かな希望を抱かせて下さいます。誰
でも、主イエスを信じ、十字架と復活によ
って実現した救いを信じるなら、永遠の命
を与えられます。神から新しい力を受けて、
確かな福音を大胆に語りながら歩み続
けるようになるのです。

(記 岡村 恒)

